

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

◆ 学生選書ツアー2019を開催いたしました ◆

2019年9月20日(金) 紀伊國屋書店新宿本店にて

だんだんと秋らしさが訪れる中、今年も学生選書ツアーを開催いたしました。「じっくり時間をかけて本を選びたい」という学生さん達の要望に応え、ツアー内容を「紀伊國屋書店新宿本店での選書(90分)」「ディスカッション」「選書本のPOP作成(本を紹介するカードをつくる)」という構成で実施いたしました。会場である紀伊國屋書店新宿本店は毎年好評で、平日でも非常に混み合う人気店ですが、今年も快くツアーをお引き受けくださいました。当日は午前10時に開始し、最初の30分は書店員の方から選書作業に関する説明を受けました。特にバーコードリーダー(選書をするための器械)の使い方については皆さん熱心に聞いていらしたようで、練習用の本で読み取りを試す学生さんもうらっしゃいました。ひと通り説明を受けた後に選書作業に入り、午前10時半から90分間、地下1F~地上7Fという大きな書店内を行き来しながら、図書館に置きたい本を自由に選書いただきました。選書風景を撮影するため皆さんのところへお邪魔しましたが、どなたも真剣な表情で本と向き合っている姿がとても印象的でした。途中、バーコードリーダーの電池が切れそうになったり、選書したい本(実際は雑誌でした)にバーコードがなかったりとハプニングもありましたが、友達や先生方とコミュニケーションをとりながら、楽しく選書して下さっていたようでした。

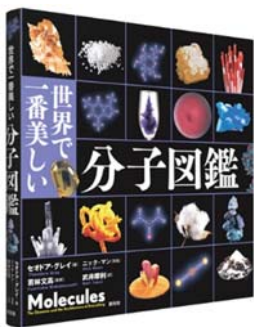
選書後はディスカッションルームに集まり、1人ずつツアーの感想を述べていただきましたが、「参加してよかった」「本を実際に手にとって選べるのが楽しかった」など、皆さん充実した時間をお過ごしいただけたようでした。中でもとても印象的だったのは「本屋さんは普段1人で行くことが多いが、友達と選書ツアーに参加しているんな発見があった」という感想です。大きな書店でたくさんの本に触れ合えることのほか、普段は行かないような売り場に足を運んだり、「友達はこんな本が好きなんだ」と大学内では知りえない友達の意外な一面を知ることができたりと、ツアーの醍醐味ともいえる感想を述べていただけたことに非常に胸を打たれました。これから参加者の皆さんに描いていただくPOPは後ほど図書館内に展示させていただく予定です。皆さまぜひご覧くださいませ。

最後になりましたが、今回の選書ツアーに際し、ご協力くださいました紀伊國屋書店の皆さま、そしてご参加くださった学生の皆さん、本当にありがとうございました。選書ツアーを通じて学生さん達が幅広い分野の本に触れ、本の魅力を改めて感じてくれますよう、今後もこの企画を継続したいと考えております。



◆ ツアー参加者の感想(抜粋) ◆ 紀伊國屋書店にある参考書の種類が豊富だったので、読み比べながら自分に合ったわかりやすい参考書を選ぶことができました。/ 事前にどんな本を選ぶかある程度決めて行きましたが、実際に色々な本を手にとることで本に対する視野が広がりました。/好きな本を探して選ぶ時間が非常に楽しかったです。看護や医療に関連した専門書に限らず、様々な分野の本を手にとることができる選書ツアーを開催していただきありがとうございます。/幅広い分野の本に触れることができるほか、普段あまり目にしない本を見ることができて、知らなかった自分の専攻分野とのつながりを発見できました。/本を選ぶことが楽しくてあっという間に時間が経ってしまいました。ディスカッションでは、ツアー参加者の皆さんが興味を持っている本やその本についての魅力などもお話いただき、自分自身が読みたいと思う本の幅が広がりました。/普段の大学生活ではなかなか関ることができない他学年との交流が図れてよかったです。/普段手にとらない本にも興味を持つことができました。/紀伊國屋書店のような大規模な本屋さんに行ったことがなかったので、とても楽しかったです。/ etc.

「感じる心」を大切に 私のお気に入りの1冊『世界で一番美しい分子図鑑』



世界で一番美しい分子図鑑
セオドア・グレイ著/ニック・マン写真/創元社刊

管理栄養学部 教授 佐藤典子 (N.SATO)

秋風を感じる今日この頃ですが、私は五感を楽しむことのできるこの季節が大好きです。たくさんの旬の食べ物が味覚・視覚・嗅覚・感触そして時には聴覚で人々の心を満たしてくれます。また、山や街路の木々が冬支度のために「こうよう(紅葉と黄葉)」していく過程は人々の心を魅了します。学生の皆さんは、国家資格取得に向けて頑張っていると思いますが、時には気分転換も必要です。つらいな疲れたなと感じたら、気軽な気持ちでパラパラとめくって欲しい本があります。セオドア・グレイ〔著〕、ニック・マン〔写真〕『世界で一番美しい分子図鑑』(創元社)です。全世界100万部のベストセラー『世界で一番美しい元素図鑑』の続編です。

理科で習った元素周期表は、この宇宙に物理的に存在するものが103の元素で網羅されていることを示しています。元素はアルミ鋼や銅線などの単体でも存在しますが、私たちが生活の中で実際に接することの多い物質は、分子や化合物の方がはるかに多いのです。この本は14章から成り、美しい写真と化学構造式、簡潔な説明文で構成されています。特におすすめの章は、「第12章 いろいろな色の化学物質—芸術家の色—」です。皆さんもよく知っている後期印象派の代表的な画家であるゴッホは、「ひまわり」という作品が有名です。わずか37年という短い人生の中で黄色の花を多く描いていたそうです。著者は、ゴッホが黄色の花が好きだったことに加え、その時代に黄色の染料が入手しやすかったのでは?と推察しています。合成有機染料が開発されるまでは、鮮やかな色彩を出すために、コバルトブルーやカドミウムイエローなどの金属酸化物や金属塩、ラピスラズリやターコイズなどの半貴石を粉にしたものが用いられていましたが、本の中に登場する美しい色の写真を見るだけでわくわくします。さらには画家の人生に想いを巡らせ不思議な気持ちになれます。もし皆さんがこの図鑑を見てみたいと好奇心がわきましたら、ぜひ、NSATO研究室にいらしてください。お待ちしております(現在、東京・上野の森美術館ではゴッホ展「人生を変えたふたつの出会い」が開催されています。彼の手紙の中の言葉とともに日本未公開作品も展示されるとのことで、作品を通してゴッホは何を伝えたかったのかと自分なりに謎解きをしたいと思っています)。

最後に、私は人が生きていくうえで、「感じる心」は大切だと考えています。人生はうまくいく時ばかりではないので、そんな逆境の時にこそ「心が和む」「素敵」と感じる本に出合って欲しいと願っています。きっとあなたの心を豊かにし、勇気づけてくれると思います。

鑑木清方 幻の《築地明石町》特別公開



みなさんは鑑木清方(かぶりき・きよかた)という日本画家をご存知でしょうか。彼は1878年に東京神田に生まれ、16歳の時に「やまと新聞」の挿絵を担当したのをきっかけに画業の道を歩み始めました。日本画では文展や帝展を活躍の場とし、1927年に発表した《築地明石町》が帝国美術院賞を受賞すると、清方は日本を代表する画家のひとりとして名声を博します。この《築地明石町》が「幻の名作」と呼ばれる理由は、1975年以降所在が不明となっていたためです。しかし2019年6月、この幻の名作《築地明石町》が実に44年ぶりに発見され、東京国立近代美術館が新たに収蔵することとなりました。《新富町》《浜町河岸》(どちらも鑑木清方作)も併せて収蔵され、近代日本画史に残る三部作が11月1日(金)より公開されます。清方の繊細な筆づかいが生み出す瑞々しい美人画は、ため息が出るほど美しく、観る人を虜にします。多くの人々が再び目にできる日を心待ちにしていた作品たちをこの機会にぜひご覧ください。

(左)鑑木清方《築地明石町》1927(昭和2年) 絹本着色・横装 1735X74.0cm 東京国立近代美術館 ©Nemoto Akio

会場：東京国立近代美術館 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1 会期：2019年11月1日(金)～12月15日(日) 開館時間：10:00-17:00(金曜・土曜は10:00-20:00) ※入館は閉館30分前まで。休館日：月曜日(ただし11月4日は開館)、11月5日(火) 観覧料(当日券)：一般800円/大学生400円/ ※高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名は無料。※それぞれ入館の際、学生証、運転免許証等の年齢の分かるもの、障害者手帳等をご提示ください。 無料観覧日：11月3日(日・文化の日) ホームページ：https://www.momart.go.jp/ お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

資料探しのお手伝いをします

皆さんは「レファレンスサービス」をご存知でしょうか。「探している資料が見つからない」「図書館での調べ方がわからない」など皆さんがお困りの際に図書館員がお手伝いをするサービスです。お気軽に図書カウンターへご相談ください(質問内容によってはお時間を要する場合がございます。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます)。



日々草(ニチニチソウ)

毎日枝先に新しいつぼみをつけることから「日々草」という名前がつけられたそうです。次から次へと花が開くので、いつ見ても新鮮な印象を受けます。研究棟前にも色とりどりの日々草が並んでいます。艶々して丸みを帯びた葉っぱも可愛らしいです。【参考文献】『花づくり&ガーデニング百科』(ブティック社)

